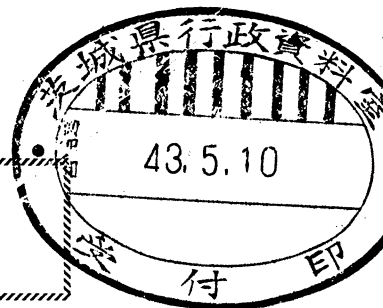


# 統計茨城

No. 174

## 4. 1968

■ 電子計算機利用の発達	1
■ 計量経済モデルの内容と利用(その2)	2
■ 茨城県における土地生産性の成長	4
■ 昭和43年度に実施される統計調査	6
■ 県内の産業(31)	8
■ 第19回統計グラフ募集要領	11
■ 県内主要経済指標	12
1. 通貨・手形・株式・百貨店・労働市場	12
2. 世帯・人口および人口増減	13
3. 人口動態	13
4. 消費者物価指数(水戸市)	14
5. 県内金融機関別預金残高	15
6.         〃         貸出残高	15
7. 農産物の販売価格(平均)	16
8. 農業用品の購入価格	16
9. 茨城県工業生産指数	17
10. 産業別推計労働者数・平均労働時間 および平均月間給与額	19
11. 主要品目小売価格(水戸市)	20
■ 統計漫歩(34)	22
■ 統計ニュース	23
■ 統計調査の紹介	23



## 電子計算機利用の発達

統計審議会会長 山内二郎

技術革新という言葉が新聞雑誌に見えるようになってから、すでに20年であろうか。この技術革新のうちでもことにテンポの速いものに電子計算機があげられている。電子計算機は5年も経つとすっかり変わってしまうほどの速さで、新しい方式が次から次へと生れて来ている。ほう大なデータを処理するのに、パンチカードがつかわれているのも周知のとおりであるが、パンチカードをやめて、さらに処理時間を減らしてしまうというのが、さきごろもつかわれたマークセンシングカードの利用で、それをつかつた人々はすでに承知のとおり、集計に2年もかかったのも1年ですましてしまうといったように統計結果を早く利用できるようになった。

こうしたことは、電子計算機のいろいろの所で考えられているのである。

10月下旬から11月上旬にかけて、3週間たらずの短い旅行で、アメリカに行って、10年振りの電子計算機の発達に触れて来たが、とにかく電子計算機利用の巨人国アメリカでは、うらやましいことが多かった。ますます規模が大きくなり、ますます高速度になって、社会科学、言語学、あるいは作曲にまで利用範囲が広がって来たために、大学においても理工系以外の学生のためにも電子計算機学の教育をしなければいけないというほどになり、現在大学院での教育にも非常な力を入れはじめている。この2月大統領の科学諮問委員会の報告が発表されて、具体的な数多くの提案がされているのを知った。しかも諸所の公私立大学で大型電子計算機を入れて実際の教育研究をしているのを目の当りに見て、まことにうらやましいかぎりであった。

電子計算機の規模が大きくなり、超高速度化されたほかに、計算結果が直ちにブラウン管（テレビの受像機と同種のもの）の上に図形となってあらわれ、それを修正すると、計算し直してその結果があらわれるとか、計算結果の立体図形を回転して、いろいろな方向からの観測をして、また修正して、その結果を直ちに見るといった図示装置は、手許に置いておいていたらと、思わずにはいられなかった。これもわが国では研究しているから何れは手に入るであろうけれども。

おおぜいの人々が別々に、同じ電子計算機を相手にして、あたかもその人々個人がその電子計算機を専用していると思うような、タイムシェアリング方式（時分方式）で、機械と対話しながら、計算を進めて行くことも、ようやくわが国で実現しはじめたが、アメリカではこの新しい方式もすでに実用化の段階に入っているのであった。

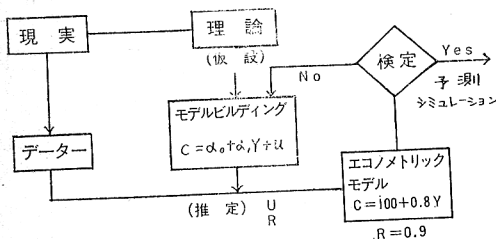
あと5年経ったら、果してどんなになっているであろうか？

4 モデル分析の手順

モデル分析を進めるにあたっては、目的意識が先行することは当然であるが、ここではモデル分析の作業的な手順について、その概略を述べると次のようになる。

- (1) 資料収集とモデルビルディング
- (2) パラメーター推定
- (3) パラメーター検定
- (4) 誘導型方程式とモデルの適合度の検討
- (5) 予測およびシミュレーション

これを図示すれば次のとおりである。



(1) 資料収集とモデルビルディング

資料収集とモデルビルディングは非常に密接な関係がある。いかに理論的に立派なモデルであっても、変数としてとりあげたものが、現実のデータとして入手できないときは、モデルの一部を変えなければならない。そこでまず、モデルビルディングについて述べることにする。

理論的なモデルは、消費は所得によって決められるであろう(ケインズ)とか、生産はそれを生みだすために使われる資本ストックや労働者の数によって決まるであろう(コブ・ダグラス)など、経済理論にもとづくものや、法人税や法人所得によって決まるであろうというような経験にもとづくものなどによって、経済指標の因果関係を方程式の形につくりあげて行く。

方程式をその性質によって分類すると

- ア 行動方程式……先の消費関数がこれに当たるが、そのほか、投資関数など経済主体の行動を経済理論にもとづき定式化したもの。
- イ 技術方程式……原材料など生産要素をどれだけ、どのような割合で投入すれば、どれだけ製品が生産されるかなど、生産の技術的関係を定式化したもの。
- ウ 制度方程式……先の法人税と法人所得のように、制度的に規定されている関係を定式化したもの。
- エ 統計式……これは、被説明変数を時間との関係あるいは1期前の同じ指標の値によって説明しようとすることを定式化したもの。

計量経済モデルの  
内容と利用(その2)

県企画室 生井 一郎

オ 定義式……たとえば、県内生産所得は1次+2次+3次産業生産所得のように定義的な恒等関係を示す式である。

のようになる。

さて資料の収集であるが、モデルの種類によつても異なるが、年ベースとするか、四半期ベースとするか、月別とするかなど、いずれにしても期間的にはできる限り長期間あつた方がよいわけである。また、時系列データが入手できないときには、クロスセクションデータを収集することもある。

資料の範囲については、最少限モデルビルディングの際変数としてとりあげたものは収集する必要がある。たとえば、本県のパイロットモデルを作成するにあたっては、財政(国、県、市町村)、人口、県民所得、市町村間の時間的距離などが収集される。

次に資料の収集加工である。これには時系列でみて欠けている時点と補間推計、不足している資料について既知の資料との関連において推計すること、名目値を実質化することなどがあげられる。

(2) パラメーターの推定

先に掲げた(2)~(5)までの作業は電子計算機によつて行なわれることが大半である。

パラメーターの推定は、図に示した、 $C = \alpha_0 + \alpha_1 Y + U$ の場合の $\alpha_0$ や $\alpha_1$ を推定すること。さらに攪乱項Uおよび相系数Rの推定などがこれにあたる。

推定方法としては、直接最小二乗法、二段階最小二乗法、逐次最小二乗法、最尤法などがあり、同時連立モデルの推定にあつては、最尤法が望ましいが、実際にはサンプルサイズの関係で、推定方法だけを精密にやつても意味が薄いということから、通常用いられている方法としては、二段階最小二乗法、逐次最小二乗法が多い。

(3) パラメーター検定

パラメーターの検定には $\alpha_0$ や $\alpha_1$ の推定値の有意性、それらとその標準誤差の関係、さらにこれらの符号条件などを検討する。また攪乱項についても式の説明力という観点から検討を加え、相関係数についても、有意性の検定が行なわれる。

(4) 誘導型方程式とモデルの適合度の検討

以上のような作業を行なうことによつて構造方程式が

作られますが、この連立方程式を解いて、左辺の内生変数を先決変数のみで説明するように変型された式を誘導型方程式と呼んでおり、このようにしておくことと予測や、シミュレーションに大変便利です。

モデルの適合度は、モデルが現実の経済をうまく説明しているかどうかということであり、これを検討する方法として、トータルテスト、ファイナルテストの二つがある。

トータルテストは、モデルの先決変数に観測値を代入し、説明変数のうち内生変数はモデルの中で決定させて用いながら、各内生変数の理論値と実現値とを比較する方法である。もう一つはファイナルテストである。外生変数の実現値と先決内生変数の初期値を与えて、逐次内生変数を決定していく方法で、前者は、モデル全体をテストすること、後者は予測力のテストに適している。

#### (5) 予測およびシミュレーション

これについては次の政策シミュレーションで述べる。

### 5 政策シミュレーション

シミュレーションとは、外生変数値をいろいろと変えてみることによって、内生変数がどのような値をとるか調べてみることである。すでに述べたようにこれには、

過去について行なう場合と、将来について行なう場合があるが、将来については、外生変数値をトレンドで伸ばし、これをモデルに入れて単純予測を行なうこと。いま一つの方法は、外生変数とくに政策変数を変えることによつてどのような結果となるか、いわゆる政策シミュレーションが主な分析手法となつている。

モデル分析において、最も興味のあるのは、この政策シミュレーションである。ここでは、昨年10月に公表された、経済審議会地域部会報告の地域計量モデルによる政策シミュレーション結果のあらましを紹介することにするが、まず地域計量モデルのあらましをみると次のようなものである。

構造方程式35本、定義式22本の合計57本から成つており、全国を9地域に区分し、産業は1, 2, 3次の3区分となつている。データ期間は、昭和30年～37年の8カ年であり、推定にあつては、9地域×8期間=72サンプルのプーリングデータを用いている。推定方法は、逐次最小二乗法が用いられている。

政策シミュレーションの結果のあらまは、次表のとおりであるが、これをみると、交通・通信体系の整備を重点的に行なうことが、結果からみて、望ましい政策ということにならう。

### 地域計量モデルによる予測結果

	条件付予測 (1)	条件付予測 (2)	条件付予測 (3)	条件付予測 (4)
外 生 変 数	30年代において日本経済を規定していた諸条件に大きな変化がなく、そのまま20年間推移した場合	民間および政府資本が関東、近畿を除くその他の地域に重点的に配分された場合	交通・通信体系の整備を重点的に行かない地域相互間の経済的距離を短縮した場合	公共投資態度を生活基盤関係に重点をおいた場合
予 測 結 果	ア 先進3地域への人口産業の集中。 イ マクロでは高い経済成長が続き産業構造高度化、1人当り所得も高くなる。 ウ 後先地域の人口流出は続き、先進地域の生活環境施設の相対的不足化傾向も続く。	ア 地域間所得格差を縮小させる効果をもつ反面、マクロでの経済成長率を若干鈍化させる。 イ 人口集中が緩和される。 ウ 生産面でも2,3次産業を中心とする集中傾向抑制 エ イ、ウにもかかわらず、先進地域での生活環境社会資本の相対的不足は改善されない。 オ 産業構造面では就業者、生産所得ともに1次産業の低下傾向は弱まる。	ア 先進3地域への人口集中は強まり、その他地域の減少化傾向は強まる。 イ 産業構造は著しく高度化しマクロでの経済成長率も上昇 ウ 地域間所得格差減少 エ 産業構造は地域別にも高度化し、いずれの地域でも総生産所得は増加し、地域開発の効果も見出される。	ア マクロでの経済成長率を鈍化させ、地域間所得格差を拡大 イ 反面、生活環境程度は著しく改善される。

# 茨城県における 土地生産性の成長

茨城農林統計会長 野 口 一

## 農業の発展と生産性

農業所得統計（農林省茨城統計調査事務所）によれば、近年における労働生産性の伸びは、土地生産性のそれをはるかに上回り、較差は拡大しつつある。

戦後日本の農業生産性の追求が、労働力の相対的な減少、不足によつて節約を考え、能率を高めようとする方向へ進んできた。本県も軌を同じくしているのは自然の勢といえる。農業の機械化、省力化が優先的に取り上げられ、労働生産性の向上という目標の比重がより大きくなつてきているものといえよう。

## 近年における農業生産性の変化

このような農業生産力の兼本的動向を検討しながら、生産性の問題の所在を求めべきであろうが、前記した

労働生産性への傾斜の深まりに対して、土地生産性はどう変化したかを検討してみたい。

表1によれば、本県の耕地面積10アール当り農業（耕種）粗生産額（土地生産性）は、この5年間に2万6千円から4万4千円へと67%増加した。一方、労働生産性は、12万2千円から25万8千円へと112%増加した。この間、基幹労働者数は耕地10アール当り0.22人から0.17人へと21%減少している。したがつて、労働生産性は、土地生産性の1.7倍の速度で伸びていることは注目に値する。

注 通常、唱えられている土地生産性は、すべての農業生産部門を含んだもので論ぜられている。ここでいう土地生産性は、耕種部門の粗収益をデーターとして採用している。したがつて、本稿における（表を含む）土地生産性は、耕種部門を指している。

表1 本県土地生産性と労働生産性

	耕地面積10アール 農業粗生産額	農業専従者1人当り 農業粗生産額	耕地10アール当り 農業専従者数	労働生産性の 成長率
	100円	100円	人	
昭和35年	261 (100.0)	1,216 (1000.)	0.215 (100.0)	$\frac{112}{67} = 1.7$
40年	437 (167.4)	2,577 (211.9)	0.170 (79.1)	

注 農業所得統計、粗生産額は耕種部門のみとし、名目額で算出した。

## 市町村別土地生産性の変化

このような動きの中に、市町村別の土地生産性を土地の利用という面から、マイクロ的数字を基礎に検討しよう。

云々までもなく、本県は地勢、気候、風土などの相異によつて地域の姿が異なる。耕地10アール当り粗収益（土地生産性）といつたところで、土地利用度の面からの制約をうけるところと、そうでないところでは自う差異ができるのはいうまでもない。

土地の利用度には、単に、立地条件ばかりでなく、その地帯の農業の技術的水準や、農業経営に対する農民の積極性などを示す指標でもある。したがつて、その利用

度の相異による土地生産力の大きさをみることは意義がある。

耕地10アール当り粗収益の大きさを、土地面積の利用度の相異にもとづく分と、それを除いた——土地利用度を一定とした場合のそれとに分けにみる。これは延作付面積と、耕地面積10アール当り粗収益との比較によつて検討されよう。

表2によれば、延作付面積10アール当り粗収益の特徴は、地域差の縮小化、さらには、5ヶ年間における成長の変化がみられることである。

表 2

10 アール 当り 粗 収 益 の 変 化

100円

		最 大 値	最 小 値	差	変 化 係 数 (%)
昭和35年	耕 地 面 積	336 (大 和 村)	199 (友 部 町)	137	20.0
	延 作 付 面 積	262 (汐 来 町)	138 (阿 見 町)	124	13.8
40年	耕 地 面 積	640 (八 千 代 村)	326 (友 部 町)	314	14.5
	延 作 付 面 積	397 (取 手 町)	211 (江 戸 崎 町)	186	12.2

かくして、耕地の利用度の差異を排除してみた市町村の優劣差は、表3(省略)に示される。土地生産力のもととも高い地帯は、真壁郡、結城郡、および猿島郡の西北部、ならびに北相馬郡の西北部にかけて存立する。

表5(省略)は、5か年間に於ける市町村別の伸長の姿である。対角線で左下から右上に位するところ程、優位であることを示している。成長のいちじるしいとみられたのは、耕地面積10アール当り粗収益の上昇率171%、延作付面積10アール当り粗収益171%以上の区域に含まれる28市町村である。地域別には、南部、西部に集中している。これを畑耕地比率により区分すると、畑耕地率60%以上は40%、40~60%は30%、21~40%は21%とそれぞれの市町村が計測される。

つぎに、耕地の利用度の伸長による成果(耕地面積と延作付面積10アール当り粗収益上昇率の差)は、表6(省略)に示される。名目的には、全市町村数の約37%(34市町村)が計測される。しかし、5か年間に農産物の価格水準は相当上昇しているのを、これを大雑把に考

慮してみれば、実質的にはわずかに17%(18市町村)に止まるのみである。極めて荒っぽい算出であるが、今後、土地生産力の増強には、本県の畜産物の増大と相まって、斜陽化ムードの麦作を何らかの形でもりかえし、基幹産物である米、とくに水田土壌構造の改善と緊密に直結した地力と、水の管理によつて高収位安定化に導く技術開発が望まれる。なお、従来から特産地として意義をもつたところでは、粗収益では若干不利でも立派に伸びる要素となりうるだろう。

表7は市町村別の土地利用率和、畑耕地比率の関係を示したもので、両者の間に極めて高い関係がある。表5、表6との関連において、市町村の姿が興味ある位置付けをみせている。

なお、耕種を米、麦類、野菜、果樹などの部門に分けて検討をすすめることは、極めて意義のあることと思われる。センサス資料が有効な武器となろう。またの機会にゆづりたい。

	畑 耕 地 比 率 (40年)										
	% ~10	11~20	21~30	31~40	41 ~ 50	51 ~ 60	61 ~ 70	71~80	81~90	計	
土 地 利 用 率 ( 昭 和 4 0 年 )	81 % ~180	—	—	—	—	—	古河市	—	—	1	
	171 ~180	◎土地利用率和畑耕地比率との相関は極めて高い。両者の関係は次の式で示される。 $Y=0.834X+99.3(R=0.804、積率法)$ (土地利用率)(畑耕地比率)				五霞村	八千代村	—	那珂湊市 他 1	—	4
	161 ~170					協和町	緒川村	牛久町 他 2	小川町 他 3	旭村	10
	151 ~160	—	—	—	—	—	大宮町 他 2	茨城町 他 13	勝田市 他 4	—	22
	141 ~150	—	—	谷和原村	—	金砂郷村 他 4	大洗町 他 5	水戸市 他 5	—	—	18
	131 ~140	—	新利根村	常澄村	牛堀町 他 1	笠間市 他 5	友部町 他 3	—	—	—	14
	121 ~130	—	—	龍ヶ崎市	常陸太田市 他 3	七会村 他 4	日立市 他 1	—	—	—	12
	111 ~120	東村	河内村 他 2	北茨城市 他 2	十王町	—	神栖村 他 1	—	—	—	10
	101 ~110	—	—	汐来町	—	—	—	—	—	—	1
	計	1	4	7	7	18	19	24	11	1	92

注 2 重けい線は凡その県平均を示す。

# 昭和43年度に

## 実施される統計調査

国や県の行政施策を進めていくための資料として、毎年数多くの官庁統計が作られて各方面に活用されているが、本年度も県統計課関係の各種統計調査が下記のように行なわれます。このほかにも、県民所得推計とか、各種の指数の計算とかのいわゆる第2次統計の作成や、統計調査の結果をまとめる各種統計報告書の出版等の仕事が行なわれます。

統計調査のうち、単県統計調査から、委託統計調査が14あります。このうち新しく行なわれるものに単県では農畜産物の流通調査と小規模事業所流通調査があります。この調査は、指定された農畜産物がどのような経路で県内に流動しているか、県外からどれくらいの数量が移入され、移出されているかといった流通過程を把握して農業行政上の諸施策や経済計画の基礎資料を得ようとするものです。小規模事業所統計調査は、常用労働者数30人以下の事業所における給与、労働時間、雇用等の実態を調べ、本県の小企業事業所の賃金、雇用の状況を解明して行政施策の資料とするものをやります。

委託統計調査のうち5年ごとに行なわれる住宅統計調査は、住宅および居住世帯の実態を調べて住宅関係の諸施策の資料とし、3年ごとに調査される就業構造基本調査は、国民の就業、不就業の基本的構造を明らかにして雇用、失業対策などの基礎資料とします。また商業統計調査は、全商店の分布状況、商業活動の実態を明らかにし経済構造分析、中小企業の振興対策、商品流通対策、などの資料として活用され、5年ごとに行なう第4次漁業センサスは、漁業経営体、漁獲等の実態を明らかにして水産行政施策の資料とするものです。

以上のうち市町村の統計機構を通じて行なわれるものは、単県統計調査では、農業基本調査、移動人口調査、商工業実態調査、農畜産物流通調査の4種であり、委託統計調査では、住宅統計調査、就業構造基本調査、工業および商業統計調査、第4次漁業センサス、学校基本調査等6種です。その他の統計調査は、調査員から直接、または調査対象から直接県に提出されることとなります。

### 昭和43年度実施の統計調査

#### 単県統計調査

統計調査名	調査期日	調査範囲	調査系統	調査事項
農業基本調査	2月1日	全部	県一市町村一調査員	農家、世帯員、耕地、農作物、作付面積、家畜家きん、農機具等
移動人口調査	毎月調査 実態調査 3月、9月 (抽出)	〃	県一市町村	男女別、年齢階層別、転出入者、出生、死亡者等移動状況をはあく
商工業実態調査 工業 商業	12月31日 7月1日	抽出	県一市町村一調査員	品目別地域別原材料購入額、出荷額、品目別国別原材料出荷額等品目別年間販売額、仕入額、年初年末在庫額、細目別営業経費額等
消費者物価調査	毎月	〃	県一市一調査員	小売価格、サービス料金、家賃等
消費実態調査	9月	〃	〃	収入階級別収支、世帯人員、住居関係等
農畜産物流通調査	6月1日	指定業者の全部	県一市町村一調査員	指定農畜産物の流通状況等
小規模事業所給与実態調査	12月31日	抽出	事業所	雇用、給与、労働時間等

委託統計調査

統計調査名	調査期日	調査範囲	調査系統	調査事項
労働力調査	毎月	抽出	国一県一調査員	世帯、15才以上の就業状態勤務先の産業、本人の職場等
小売価格統計調査	〃	〃	〃	小売価格、サービス料金、家賃等
家計調査	〃	〃	〃	消費世帯の家計収支等
個人企業経済調査	〃	〃	〃	事業の内容、管業上の収支設備費、資金および負債等
住宅統計調査	10月1日	〃	国一県一市町村一調査員	住宅の種類、所有の関係、建築時期、畳敷延べ面積、家賃、設備、構造等
就業構造基本調査	11月1日	〃	〃	15才以上の就業の実態、労働力の移動状況等
機械器具流通統計調査	毎月	〃	国一県一調査員	月初在庫受入先別、月間受入高、出荷先別、月間販売高、月末従業者等
商業動態統計調査	〃	〃	〃	商店所在地、商品名、従業者、販売額、手持額、主要販売商品名等
工業動態統計調査	〃	〃	国一県一調査員	生産高、出荷高、従業者数、機械、設備等
工業統計調査	12月31日	全部	国一県一市町村一調査員	工場数、従業者数、現金給与額原材料使用額製造品出荷額原材料、燃料、半製品、仕掛品の在庫、有形固定資産年初現在高、取得額、減価償却額等
商業統計調査	7月1日	〃	〃	商店数、従業者数、売場面積、品目別年間販売額、業態別、地域別、卸売先別割合、セルフサービス方式の有無、営業経費
学校基本調査	5月1日	〃	国一県一市町村一学校	学校数、学級数、児童生徒数、教職員数学校建物、土地学校経費、就学免除猶予者数、卒業後の状況
学校保健統計調査	4月～7月	抽出	国一県一学校	児童生徒の身長、体重、胸囲、座高、健康状態、視力等
消費者動向予測調査	5月・8月 11月・2月	〃	国一県一調査員	消費支出の実績と見通し、貯蓄借入残高、月賦利用、耐久消費材の保有状況等
法人企業投資調査	3月・6月 9月・12月	〃	国一県一事業所	事業内容、設備投資額、在庫投資額等
毎月勤労統計調査	毎月	〃	国一県一調査員事業所	生産品の名称、事業内容、常用労働者数、就業日数、労働時間、給与、常時日雇および賃金
第4次漁業センサス	11月1日	全部	国一県一市町村	漁業経営体、漁船、漁業種類、漁期、操業日数、漁業経営状況、漁獲物等



# 県 内 の 産 業

(その 31)

— 準戦時における経済の推移 —

県統計課 横須賀 弘

生産額を地域別にみると、昭和12年県内総生産額の26.3%を占める多賀郡が7,600万円で最も多く、続いて新治、猿島、水戸、真壁等の順となり、それぞれ7.4%、7.6%、7.0%、6.5%でいずれも多賀郡の3分の1にも満たないのであります。

これを昭和14年とくらべてみると、第1位は同じく多賀郡で総生産額の32.6%を占め、2位以下との間大きな格差がみられるのであります。しかし、2位以下をみるとその順位に若干の変動がみられ、多賀郡に続いて猿島、新治、真壁、東茨城等の順となり、それぞれ7.8%、

6.8%、6.0%、5.8%となり新治、猿島が入れ替り、水戸の脱落がみられますが、水戸の場合土産物の大きな減少がその主因となるのであります。猿島郡は土産物の伸長が目立ち、14年/12年対比195.9%と約2倍に達したのであります。東茨城郡もまた畜産物、土産物がそれぞれ189.4%、185.7%を占めたが、第1表でみられるとおり、県計で172.3%と大きな増加をみられ、とくに多賀郡は213.8%と著しかつたのであります。これは土産物が14年には12年にくらべ約3.7倍に達したことが大きな原因でありましょう。次いで猿島郡、筑波郡、西茨城郡、東

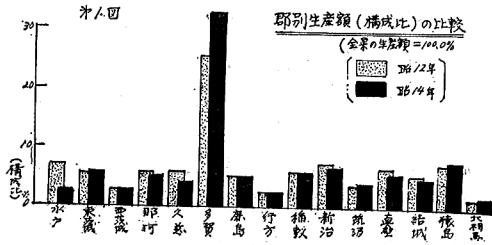
第1表

市 郡 別

	農 産 物			畜 産 物			林 産 物		
	昭 12	昭 14	14/12	昭 12	昭 14	14/12	昭 12	昭 14	14/12
県 計	135,719	228,923	168.7%	6,888	11,359	164.9%	9,619	19,658	198.2%
水 戸	309	509	164.6	244	399	163.5	—	7	—
東 茨 城	11,332	19,173	169.2	469	888	189.4	707	1,629	230.4
西 茨 城	5,864	9,756	166.4	238	409	171.9	1,162	3,694	317.8
那 珂	12,103	19,464	160.8	504	985	195.5	968	1,676	173.1
久 慈	9,836	14,594	148.4	358	550	153.6	2,047	4,035	197.1
多 賀	3,777	5,897	156.1	360	429	118.9	1,036	1,845	198.1
鹿 島	8,982	15,882	176.8	396	575	145.3	430	622	144.6
行 方	6,155	10,314	167.6	226	267	118.0	188	466	248.1
稻 敷	13,144	22,533	171.4	605	1,000	165.4	338	625	194.8
新 治	13,124	23,264	177.3	688	1,253	182.1	1,047	1,928	184.3
筑 波	10,115	18,001	178.0	467	759	162.5	424	818	193.2
真 壁	13,425	21,335	158.9	628	945	150.6	554	1,294	233.4
結 城	10,749	18,352	170.7	805	1,279	158.8	646	308	47.7
猿 島	11,566	20,603	178.1	596	1,062	178.3	306	555	181.0
北 租 馬	5,239	9,244	176.4	304	559	183.5	66	156	237.2

(注) 土産物のうち( )内数値はその他の(鉱産物)を示す。

茨城郡等が県平均を大きく上廻っております。しかし、実績では多賀郡が全生産額の昭和12年で26.3%、14年32.6%を占めていることは前述のとおりであります。



この生産額に占める各産業をみると、農産物が全体の46.8%、工産物30.3%、その他10.1%（鉱産物を含む）、水産物4.0%、林産物3.4%、畜産物2.4%となり、昭和14年には農産物45.8%、工産物36.3%、その他8.0%、林産物3.6%、水産物3.6%、畜産物2.3%で農業構造に大きな差異はみられなかつたのであります。

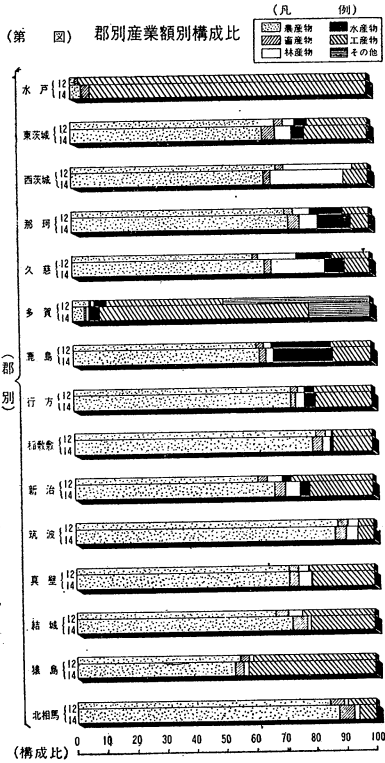
まず農産物についてみると、筑波郡が昭和12年で郡内全生産額のうち87.3%を農業生産額で占め、昭和14年は86.9%で0.4ポイントの減少となつたが同郡では依然約9割が当該産業で占められているのであります。次いで北相馬の昭12年84.4%、昭14年87.5%で3.1ポイントの増、稲敷が12年80.6%、14年79.8%で0.8ポイントの減少となつているが、実績からみると12年では真壁、稲敷、新治各郡が1,300万円、那珂郡1,200万円、猿島、東茨城郡1,100万円で、14年には新治2,300万円、稲敷2,200万円、真壁2,100万円、猿島2,000万円となりその順位にわずかに移動がみられます。

工産物では水戸市は昭和12年で97.3%、昭和14年は93.7と3.6ポイントの減少となつております。もちろんこの当時の工産物のなかには今でいう産業分類の製造小売業、サービス業等の商店も含まれており、産業構造上から工産物のウェイトの高い水戸市と多賀郡とを同一にみることはできないでしょう。すなわち水戸市は商業的軽工業部門の零細工場が多く、多賀郡は重工業部門の工場が多かつたのであります。また、多賀郡ではその他が昭和12年

生 産 額

(単位：千円)

水 産 物			工 産 物			合 計		
昭 12	昭 14	14/12	昭 12	昭 14	14/12	昭 12	昭 14	14/12
11,460	18,072	157.7	87,977	181,573	206.4	290,001	498,674	172.3
		%	(38,038)	(40,088)	(105.4)			
2	7	290.3	19,904	13,750	69.1	20,459	14,671	71.7
635	1,262	188.7	3,374	6,265	185.7	16,517	29,217	176.8
1	1	113.5	1,204	1,309	108.7	8,569	15,239	177.8
			(100)	(35)	(34.8)			
1,864	3,040	163.1	1,509	1,635	108.4	16,954	26,804	158.1
			(7)	(5)	(75.2)			
1,981	1,463	73.8	2,007	1,781	88.7	16,317	22,583	138.4
			(87)	(157)	(180.7)			
3,284	5,680	173.0	26,896	109,225	365.4	76,197	162,928	213.8
			(37,844)	(39,892)	(105.4)			
2,832	5,090	178.8	2,036	3,336	163.8	14,675	25,505	173.8
285	485	170.1	1,664	2,770	164.7	8,518	14,272	167.6
70	141	201.8	2,152	3,947	183.4	16,308	28,246	173.2
444	819	184.4	6,147	7,426	120.8	21,450	34,692	161.7
7	2	22.1	576	1,145	198.9	11,589	20,725	178.8
12	22	182.4	4,239	6,298	148.6	18,858	29,894	458.5
10	—	4.6	3,963	5,370	135.5	16,173	25,309	156.5
22	43	195.9	81,710	16,756	192.4	21,201	39,019	184.0
12	18	154.7	596	59,1	99.1	6,216	10,567	170.0



で49.7%、昭14で24.5%と大きなウェイトを占めておりますが、このその他は金、銀、銅の生産額であります。

また林産物では昭12年で西茨城、久慈郡が13.6%、12.5%と10%台でその他の郡はその比重も僅少であります。同様に水産物でも鹿島郡が19.3(昭12年)と他郡に比して大きなウェイトを占しております。

上述のこの生産額のうち、製造業に含まれるものを産業別にみみると昭和12年では機械器具が7,000万円で全体の60.2%を占め、次いで、食料品1,800万円で15.6%、紡織1,300万円で11.4%等が主なものであります。昭14年には機械器具1億1000万円ですべての59.8%を占め、次いで、食料品の3,200万円(17.8%)、紡織2,600万円(14.0%とその順位に変わりはないが、機械器具で0.4ポイントの減少、食料品2.2ポイント、紡織2.6ポイントの増加がみられたのであります。

また、その増加率14年/12年対比をみみると県平均は157.7%であります。その他595.8%、窯業205.1%、紡織193.8%、食料品180.0%と県平均を大きく上廻つたのであります。県内主要産業である機械器具は156.8%と県平均を下廻つたのであります。

第2表 市郡別生産額構成比

	合 計		農 産 物		畜 産 物		林 産 物		水 産 物		工 作 物		そ の 他	
	昭 12	昭 14	昭12	昭14	昭12	昭14	昭12	昭14	昭12	昭14	昭12	昭14	昭12	昭14
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
県 計	100.0	100.0	46.8	45.8	2.4	2.3	3.4	3.9	4.0	3.6	30.3	36.3	13.1	8.0
水 戸	100.0	100.0	1.5	3.5	1.2	2.7	—	—	—	0.1	97.3	93.7	—	—
東 茨 城	100.0	100.0	68.6	65.6	2.8	3.0	4.3	5.6	3.8	4.3	20.4	21.4	—	—
西 茨 城	100.0	100.0	68.4	64.3	2.8	2.7	13.6	24.2	—	—	14.0	8.6	1.2	0.2
那 珂	100.0	100.0	71.4	72.6	3.0	3.7	5.7	6.3	11.0	11.3	8.9	6.1	0	0
久 慈	100.0	100.0	60.3	64.6	2.2	2.4	12.5	17.9	12.1	6.5	12.3	7.9	0.5	0.7
多 賀	100.0	100.0	5.0	3.6	0.5	0.3	1.3	1.1	4.3	3.5	39.2	67.0	49.7	24.5
鹿 島	100.0	100.0	61.2	62.3	2.7	2.3	2.9	2.4	19.3	19.9	13.9	13.1	—	—
行 方	100.0	100.0	72.3	72.3	2.7	1.9	2.2	3.2	3.3	3.4	19.5	19.2	—	—
稲 敷	100.0	100.0	80.6	79.8	3.7	3.5	2.1	2.2	0.4	0.5	13.2	14.0	—	—
新 治	100.0	100.0	61.2	67.0	3.2	3.6	4.9	5.7	2.1	2.3	28.6	21.4	—	—
筑 波	100.0	100.0	87.3	86.9	4.0	3.7	3.6	3.9	0.1	0	5.0	5.5	—	—
真 壁	100.0	100.0	71.2	71.4	3.3	3.2	2.9	4.3	0.1	0.1	22.5	21.0	—	—
結 城	100.0	100.0	66.5	72.5	5.0	5.1	4.0	1.2	0	0.1	24.5	21.2	—	—
猿 島	100.0	100.0	54.6	52.9	2.8	2.7	1.4	1.4	0.1	0.1	41.1	42.9	—	—
北 相 馬	100.0	100.0	84.4	87.5	4.9	5.3	1.1	1.5	0.1	0.1	9.5	5.6	—	—

# 第19回茨城県統計グラフコンクール募集要領きまる

県、県教育委員会および県統計協会が主催して行なわれる第19回茨城県統計グラフコンクールの募集要領がこのほどきまつた。

このコンクールは、第16回全国統計グラフコンクールの県予選を兼ねて行なわれるものである。本県の作品は今までに全国特選ほか上位入選しており、今年も期待されている。募集要領はつぎのとおり。

## 1 主 催

茨城県・茨城県教育委員会・茨城県統計協会

## 2 目 的

県民に対する統計思想の普及向上と統計の表現技術の研さんおよび統計教育の推進に資するものとする。

## 3 応募資格

- 第1部 小学校の児童（1年～3年）
- 第2部 〃 （4年～6年）
- 第3部 中学校の生徒
- 第4部 高等学校以上の学生・生徒
- 第5部 一般

## 4 課 題

グラフの課題は各部とも自由とする。ただし、第1部、第2部および第3部については、次の条件を付するものとする。

- (1) 第1部、第2部（小学校の児童）の作品は、児童が観察した結果をグラフ化したものであること。
- (2) 第3部（中学校の生徒）の作品は、既存統計の利用または生徒が観察した結果をグラフ化したものであること。

## 5 材料の規格

- (1) 第1部、第2部、第3部の用紙規格は、72.8cm×1.5cm（B2判仕上寸法）とする。
- (2) 第4部、第5部の用紙規格は、103cm×72.8cm（B1判仕上寸法）とする。
- (3) 各部とも紙質、各形（単色にても可）は自由とするが裏面の板張り、また表面にセロハンカバーをつけることは認めない。

## 6 送 付 先

茨城県統計課（水戸市三の丸1丁目5番38号）

## 7 締 切 日

昭和43年8月31日まで（必着のこと）

## 8 応募上の注意

- (1) 応募作品の裏面には、住所、氏名、性別、年齢および職業（児童生徒または学生の場合は、所属学校名、学年）を明記すること。  
なお、住所、氏名、学校名には必ず「ふりがな」をつけること。
- (2) 各部とも必ず統計表を添付すること。ただし、自

己の観察によらず他から資料を取つた場合は、その取材資料の出所も明記すること。

なお、統計表（取材資料の出所を含む）は25.7cm×18.2cm（B5判仕上寸法）の用紙に書き、作品の裏側に3cmの「のりしろ」ではりつけること。

- (3) 応募点数については制限はないが応募作品が2枚以上にわたるシリーズものは認めない。

## 9 指導上の注意

児童、生徒に指導する際は、次の事項に特に留意すること。

- (1) 資料の選択及び取扱ひ方に対する指導者（先生）の示唆助言等は差し支えないこと。
- (2) 表現（グラフ）の段階では、児童、生徒の自主性を尊重し、指導者（先生）が技法的に介入しないこと。

## 10 審 査

### (1) 審査員

県統計課、県教育庁および県統計協会の役職員

### (2) 審査基準

応募作品は、次の基準によつて審査採点する。

- (ア) 資 料（適正な選択と加工） 50点
- (イ) グラフ表現技術 50点

なお、各地とも（第1部および第2部については合わせて1部として取扱う。）上位数点ずつを選び全国統計協会連合会（第16回全国コンクール）に推薦する。

## 11 入選発表

入選者の発表は、43年9月下旬に本人または所属学校長あて通知する。

## 12 入選区分および賞

各部とも

- |     |             |     |
|-----|-------------|-----|
| 1 席 | 知 事 賞       | 1 点 |
| 2 席 | 教 育 長 賞     | 2 点 |
| 3 席 | 統 計 協 会 長 賞 | 3 点 |
| 佳 作 | 統 計 協 会 長 賞 | 5 点 |

なお、優秀な作品を数多く出品した学校があつた場合には、「学校賞」として統計協会総裁から記念品および賞状を授与する。

## 13 応募作品の所属

応募作品の著作権は主催者に帰属する。

## 14 展示および表彰

昭和43年11月に開催予定の第10回茨城統計大会の席上において展示および表彰を行なう。

## 15 そ の 他

不明な点については、県統計課（電話水戸(2)5505）に照会のこと。

# 県内主要経済指標

## 1 通貨・手形・株式・百貨店・労働市場

年 月	銀行券 増減(△)	手形交換高		不渡手形実数		株式取引高		県内 百貨店 売上高	労働市場		
		枚 数	金 額	枚 数	金 額	株 数	金 額		新規求職 申込件数	新規 求人 数	就職件数
	百万円	千枚	百万円	枚	千円	千株	百万円	百万円	件	人	件
昭和 38 年	△ 988	311	101,448	5,974	319,101	281,326	41,000	3,770	45,615	51,423	24,034
39 年	△ 5,614	355	142,640	8,828	796,395	166,210	19,185	4,341	43,724	55,018	24,833
40 年	△ 7,200	380	147,872	10,404	847,229	300,719	34,771	4,799	42,433	42,684	20,693
41 年	△ 1,345	436	163,444	9,901	835,514	314,579	46,589	5,472	41,509	54,084	20,587
41 年 1 月	△ 6,870	30	11,920	898	55,901	36,911	5,097	398	3,688	3,736	1,671
2 月	△ 723	32	11,361	894	50,462	46,835	7,070	361	3,245	3,334	1,470
3 月	1,068	36	12,855	953	56,292	45,622	7,084	453	3,566	4,042	1,719
4 月	△ 525	34	14,391	770	52,685	25,009	3,940	442	3,494	4,655	1,769
5 月	△ 1,277	34	12,081	859	71,634	28,004	4,185	357	3,757	3,933	1,734
6 月	1,205	41	13,328	718	47,096	19,970	3,087	380	3,523	4,222	1,636
7 月	△ 1,220	33	12,664	594	49,480	20,679	3,047	497	3,499	3,874	1,736
8 月	△ 1,657	39	14,833	1,054	84,142	17,469	2,270	339	3,749	6,556	1,736
9 月	△ 336	35	13,213	828	76,964	18,465	2,768	317	3,358	6,214	1,727
10 月	1,755	35	15,565	742	79,641	15,831	2,236	463	3,692	5,963	1,905
11 月	1,204	36	14,093	808	103,194	15,914	2,162	505	3,737	5,579	2,270
12 月	6,031	51	17,140	783	108,023	23,870	3,643	960	2,201	2,976	1,514
42 年 1 月	△ 7,110	34	14,842	693	84,295	31,088	3,972	442	3,808	6,755	1,653
2 月	△ 140	36	14,325	624	59,427	39,850	4,758	410	3,482	4,537	1,629
3 月	2,276	40	16,875	748	83,047	20,802	3,181	541	3,951	5,596	2,063
4 月	△ 796	34	16,215	423	43,279	14,672	2,033	509	3,604	6,074	1,630
5 月	△ 1,306	44	16,097	1,120	103,168	30,527	4,787	424	3,678	6,128	1,709
6 月	1,852	45	16,640	738	77,365	25,345	4,029	479	3,333	5,562	1,645
7 月	△ 687	41	16,331	671	61,832	22,084	4,202	594	3,683	6,507	1,792
8 月	△ 2,167	41	16,153	668	58,986	19,911	3,719	417	3,432	6,840	1,845
9 月	663	40	16,914	568	60,677	14,919	2,092	441	3,414	6,284	1,758
10 月	2,012	40	17,765	695	73,009	18,314	3,527	536	3,251	6,774	1,783
11 月	68	40	15,792	788	91,451	13,620	2,415	557	3,742	5,261	2,155
12 月	7,588	49	20,028	582	76,868	10,871	1,598	1,253	2,140	4,251	1,339
43 年 1 月	△ 8,329	42	18,216	960	127,442	12,611	1,705	571	3,787	5,789	1,675
2 月	△ 1,036	41	15,469	946	93,561	19,764	2,712	556	3,394	5,521	1,781
3 月	2,106	39	18,417	581	80,036	29,742	4,454	828	3,545	4,972	1,931

資料：手形・株式＝大蔵省水戸財務部  
銀行券・百貨店＝日銀水戸事務所

## 2 世帯・人口および人口増減

年 月	世帯数	人 口				自 然 動 態			社 会 動 態		
		総 数	男	女	前1ヵ月 の増減	出生	死亡	増減	転入	転出	増 減
昭和41年10月	453,110	2,056,637	1,008,221	1,048,416	—	1,895	1,082	813	6,599	7,407	△ 808
昭和42年 1月	454,543	2,057,847	1,009,110	1,048,737	590	2,524	1,539	985	6,435	6,819	△ 384
2	454,962	2,060,137	1,010,355	1,049,782	2,290	3,536	1,713	1,823	6,556	6,080	476
3	455,394	2,062,819	1,011,777	1,051,042	2,682	3,446	1,528	1,918	7,066	6,284	782
4	456,196	2,063,636	1,012,217	1,051,419	817	3,588	1,476	2,112	11,445	12,695	△1,250
5	457,559	2,065,091	1,013,250	1,051,841	1,455	3,145	1,225	1,920	14,615	15,070	△ 455
6	458,103	2,064,162	1,012,778	1,051,384	△ 929	3,356	1,253	2,103	8,501	11,606	△3,105
7	458,805	2,065,207	1,013,384	1,051,823	1,045	2,628	1,097	1,531	7,472	7,958	△ 486
8	459,295	2,067,088	1,014,495	1,052,593	1,880	2,750	1,109	1,641	6,543	6,308	235
9	459,841	2,069,615	1,015,783	1,053,832	2,527	2,806	1,108	1,698	7,266	6,444	822
10	460,405	2,071,277	1,016,757	1,054,520	1,662	2,724	1,004	1,720	7,409	7,462	△ 53
11	460,964	2,072,847	1,017,495	1,055,352	2,776	1,254	1,522	1,522	6,781	6,746	35
12	461,457	2,073,796	1,018,048	1,055,748	2,689	1,256	1,256	1,433	6,555	7,038	△ 483
昭和43年 1	461,976	2,075,303	1,019,005	1,056,298	2,969	1,503	1,503	1,466	6,310	6,265	45
2	462,467	2,076,432	1,019,604	1,056,828	1,129	3,357	2,081	1,276	6,965	7,110	△ 145

資料：県統計課（常住人口推計）

## 3 人 口 動 態

年 月	出 生		死 亡				自然増加 (A) - (B)	死 産		婚 姻	離 婚
	総 数 (A)	率	総 数 (B)	率	うち乳児	率		総 数	率		
昭和22年	69,164	34.3	28,475	14.1	5,615	81.2	40,689	3,344	46.1	22,249	1,270
25	59,723	29.3	24,867	12.2	4,147	69.4	34,856	5,236	80.6	17,913	1,314
30	44,592	21.6	18,732	9.1	2,099	47.1	25,860	4,025	81.7	14,684	1,046
35	35,664	17.4	17,709	8.7	1,473	41.3	17,955	3,500	87.2	16,326	996
40	38,357	18.6	16,888	8.2	877	22.8	21,469	2,956	71.5	18,697	1,068
41	25,837	12.5	15,947	7.7	621	24.0	9,890	2,698	89.1	18,060	1,120
42. 1月	4,549	—	1,745	—	76	—	2,804	242	—	1,409	100
2	3,811	—	1,540	—	102	—	2,271	272	—	1,633	86
3	4,147	—	1,523	—	66	—	2,624	262	—	1,945	109
4	3,493	—	1,280	—	60	—	2,213	246	—	2,017	109
5	3,327	—	1,234	—	44	—	2,093	215	—	2,012	98
6	2,944	—	1,112	—	47	—	1,833	198	—	1,451	78
7	3,153	—	1,154	—	52	—	1,999	221	—	991	92
8	3,127	—	1,101	—	41	—	2,026	229	—	731	98
9	3,078	—	1,032	—	42	—	2,046	236	—	714	99
10	3,056	—	1,257	—	49	—	1,799	240	—	1,139	94
11	3,115	—	1,298	—	44	—	1,817	210	—	1,807	105
12	3,442	—	1,608	—	69	—	1,700	217	—	2,197	98

(注) ① 昭和22年～41年は住所地別に組み替えた数値であるが、42年の各月分は、県内事件発生数である。

② 出生、死亡率は、人口1,000人対乳児死亡率は出生1,000人対、死産率は、出産1,000人対の数値である。

#### 4 消費者物価指数 (水戸市)

	総 合	食 料		主 食		外 食	生鮮魚介	肉 類	乳 卵	野 菜	加工食品
昭和38年平均	88.7	85.4	86.4	83.4	74.3	95.8	98.7	57.2	88.2		
39	91.5	89.2	87.7	87.5	77.2	98.7	96.6	64.0	93.7		
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
41	104.4	103.2	105.4	102.0	102.3	102.0	103.3	93.8	101.1		
42	107.9	107.1	109.0	108.2	115.1	107.6	106.0	109.8	102.0		
42年 1月	106.5	105.5	106.1	103.8	112.5	101.4	102.3	121.8	101.5		
2月	107.2	107.5	106.1	106.3	109.0	101.4	104.3	134.8	101.7		
3月	107.2	107.9	106.2	106.3	113.0	102.1	104.3	131.6	101.3		
4月	107.7	107.8	106.2	108.5	115.3	102.8	94.4	141.0	101.5		
5月	106.3	104.4	106.2	109.8	114.5	102.9	92.9	104.9	101.6		
6月	105.7	101.7	106.2	109.8	101.6	102.5	91.9	75.4	101.3		
7月	105.3	100.8	106.0	109.8	112.9	104.3	99.6	54.8	101.4		
8月	106.1	103.0	106.0	108.9	119.3	109.2	103.1	69.4	101.3		
9月	108.9	108.5	106.0	108.9	138.8	111.5	107.5	114.7	102.5		
10月	112.4	116.3	117.6	108.9	117.9	117.3	122.5	162.7	103.7		
11月	110.6	110.9	117.6	108.9	115.2	117.6	122.2	101.1	103.3		
12月	111.2	111.2	117.7	109.1	110.6	118.5	126.6	105.8	103.0		
年43 1月	111.9	112.9	117.7	109.1	124.2	111.6	125.4	121.5	103.6		
2月	113.2	115.7	117.1	112.8	133.1	109.6	130.8	135.7	103.6		
3月	113.3	115.6	117.1	115.0	128.7	109.6	130.8	126.9	103.6		

(つづき)

	被 服	光 熱	住 居	家 質 地 代			設 備 修 繕	家 具 什 器	雑 費	保 健 医 療	教 養 娛 楽
昭和38年平均	88.3	99.3	92.9	77.0	99.6	95.9	90.7	103.1	85.2		
39	91.1	99.3	93.4	77.4	99.0	97.1	92.8	91.8	88.8		
40	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		
41	103.8	97.2	105.3	115.4	105.6	100.9	107.1	99.8	108.6		
42	105.3	98.0	109.2	120.9	115.0	101.5	111.3	99.9	114.0		
42年 1月	106.3	67.4	106.9	118.7	108.4	101.4	109.2	101.0	111.1		
2月	105.4	97.5	107.0	118.7	108.7	101.4	109.2	100.6	111.3		
3月	104.2	97.5	107.1	118.2	109.3	101.4	109.2	98.8	111.2		
4月	103.0	97.5	108.4	118.5	113.8	101.4	111.2	98.8	113.5		
5月	101.5	97.5	109.7	122.1	115.6	101.6	111.2	98.8	113.7		
6月	103.6	97.5	109.7	121.7	116.3	101.4	111.8	98.8	115.5		
7月	104.2	97.8	109.5	121.5	115.9	101.3	111.7	98.8	115.0		
8月	103.1	97.8	109.5	121.5	115.8	101.3	111.7	98.8	115.1		
9月	106.4	98.0	109.5	121.6	116.7	100.8	112.0	100.9	115.0		
10月	108.5	99.0	110.2	122.4	116.7	102.0	112.0	100.2	114.9		
11月	108.7	99.5	110.4	122.5	117.3	102.0	112.9	100.2	115.8		
12月	108.8	99.0	113.0	123.1	125.8	102.2	113.6	105.7	115.8		
43年 1月	108.9	99.4	113.4	123.9	125.8	102.8	113.5	105.7	115.5		
2月	109.7	99.4	113.6	124.5	125.6	103.1	113.4	105.7	115.2		
3月	109.4	99.4	113.7	124.8	125.6	103.1	114.1	106.0	117.0		

資料：県統計課

### 5 県内金融機関別預金残高

単位 百万円

		銀行	相互銀行	信用金庫	信用組合	農協	郵便局	商工中金 その他	労働金庫	
昭和41年	4月	187,971	28,682	24,392	15,352	26,856	51,735	9,616	2,310	
	5月	187,334	28,587	24,438	15,589	25,941	51,792	9,549	2,318	
	6月	190,156	28,991	24,656	15,907	26,027	52,759	9,828	2,466	
	7月	192,365	29,522	25,296	16,327	30,093	54,007	9,914	2,526	
	8月	193,568	30,035	25,476	16,458	30,438	54,579	12,039	2,560	
	9月	203,410	31,396	26,309	18,257	41,242	54,826	16,931	2,556	
	10月	203,265	30,813	26,927	17,181	40,614	56,040	17,139	2,548	
	11月	212,104	31,313	27,566	17,397	42,232	56,567	17,124	2,589	
	12月	214,900	33,408	29,528	19,911	41,189	59,822	18,055	2,865	
	42年	1月	211,506	32,697	28,903	18,447	44,191	61,349	17,069	2,879
		2月	210,783	33,123	29,259	18,590	40,678	61,553	14,720	2,892
		3月	221,912	37,424	30,516	20,887	36,369	61,897	14,197	2,956
4月		216,095	34,246	30,440	19,221	34,992	62,289	15,879	2,992	
5月		219,947	34,262	30,698	19,501	33,929	62,434	16,379	3,029	
6月		230,100	35,048	31,173	19,705	34,359	64,009	15,985	3,163	
7月		232,991	35,417	32,123	20,361	39,176	65,874	25,221	3,216	
8月		233,736	35,910	32,671	20,918	40,114	66,837	15,342	3,296	
9月		247,621	37,657	33,327	22,683	50,121	67,351	16,934	3,302	
10月		246,665	37,167	33,838	22,118	55,752	69,031	24,122	3,313	
11月		259,138	37,710	34,703	22,729	54,485	69,854	24,611	3,393	
12月		263,868	40,777	37,278	26,444	57,596	73,602	25,220	3,697	
43年	1月	255,752	39,318	36,375	24,196	54,290	75,782	27,036	3,698	
	2月	255,535	39,337	36,389	24,227	51,183	76,107	25,001	3,747	
	3月	256,312	40,885	37,570	26,570	...	76,284	...	3,716	

### 6 県内金融機関別貸出残高

単位 百万円

		銀行	相互銀行	信用金庫	信用組合	農協	商工中金 その他	労働金庫	
昭和41年	4月	112,416	20,290	16,995	14,067	13,699	8,480	1,441	
	5月	113,221	19,995	17,183	14,211	14,521	8,822	1,486	
	6月	113,580	20,391	17,679	14,404	15,267	10,185	1,486	
	7月	113,894	21,323	18,135	14,649	15,540	8,971	1,539	
	8月	112,302	21,614	18,566	15,122	15,594	9,041	1,578	
	9月	114,407	22,637	19,271	16,162	14,783	9,185	1,593	
	10月	103,659	22,991	19,733	15,799	14,255	9,317	1,624	
	11月	116,412	23,231	20,449	16,140	15,259	6,623	1,670	
	12月	122,899	24,311	21,613	17,494	15,487	9,362	1,786	
	42年	1月	121,541	29,891	21,652	16,813	20,825	9,706	1,761
		2月	123,688	24,679	21,968	17,080	20,065	9,684	1,745
		3月	125,965	25,103	22,715	17,911	17,030	13,813	1,855
4月		122,726	25,139	22,874	17,286	18,037	11,727	1,868	
5月		123,941	25,273	23,274	17,446	18,892	13,738	1,884	
6月		129,584	25,658	23,506	17,681	19,770	18,277	1,875	
7月		131,458	25,704	24,139	18,026	20,082	12,356	1,926	
8月		133,782	27,213	24,684	18,430	19,921	13,358	2,007	
9月		136,651	27,750	25,425	19,588	19,609	9,980	2,019	
10月		137,884	27,880	26,022	19,565	18,843	22,602	2,086	
11月		140,773	28,204	26,788	20,264	18,292	21,654	2,131	
12月		145,822	29,314	28,129	22,101	...	20,264	2,296	
43年	1月	144,103	29,212	28,314	21,300	19,328	21,617	2,214	
	2月	144,247	28,939	28,793	21,774	20,023	15,614	2,231	
	3月	146,998	29,876	29,507	22,799	...	...	2,160	

資料：大蔵省水戸財務部



### 7 農産物の販売価格(平均)

年 月	うるち米 (玄米60kg)	小 麦 (玄麦3等 程度60kg)	ばれいしよ (男爵10kg)	だいこん (葉付10kg)	生 乳 (飲用10kg)	鶏 卵 (10kg)	肉 豚 (生体10kg)	乳用牛 (めす・生 後4月~6 月ホルス タイプ純 種)
昭和40年	6,460	2,042	233	196	385	1,935	2,199	45,615
〃 41年	6,350	2,124	266	207	407	1,896	1,910	57,777
〃 42年 4月	6,641	1,800	388	221	461	1,670	1,799	63,500
5月	6,595	1,700	414	274	474	1,532	1,738	51,714
6月	6,536	1,700	310	140	474	1,521	1,845	59,375
7月	6,445	2,964	204	215	476	1,573	1,950	59,000
8月	6,377	2,833	211	233	477	1,841	2,238	59,500
9月	6,582	2,500	218	261	—	1,986	2,414	61,000
10月	7,155	2,100	277	344	—	1,996	2,470	61,000
11月	7,282	2,067	228	229	—	1,992	2,425	61,875
12月	7,264	2,067	240	159	—	2,189	2,324	62,875
昭和43年 1月	7,255	2,067	250	172	—	2,176	2,243	66,125
2月	7,236	2,150	282	176	—	2,355	2,169	66,125
3月	7,236	2,150	284	174	—	2,214	2,144	66,125

資料：農林省茨城統計調査事務所

### 8 農業用品の購入価格

年 月	乳用牛 (成蓄めす ホルスタ イン純種)	子 豚 (めす・生 後50~70 日中ヨー クシャー)	硫 安 (N21%か ます40kg)	過りん酸 灰 (かます40 kg可溶性 りん酸17 %)	複合肥料 (N8%. P 8%. K5 %30kg)	配合飼料 (成鶏用20 kg粗たん 白15%以 上)	配合飼料 (牛乳用30 kg粗たん 白13%以 上)	パラチ オン剤 (粉剤1.5 % 3kg)
昭和40年	152,701	5,446	800	561	807(40kg)	797	1,028	285
〃 41年	171,375	3,904	801	572	710	802	1,024	268
〃 42年 4月	192,250	4,318	802	594	623	803	1,011	280
5月	192,875	3,700	802	595	626	803	1,011	280
6月	197,250	3,645	802	595	626	803	1,011	256
7月	201,000	3,818	802	595	626	803	1,011	555
8月	202,250	4,109	792	591	621	802	1,015	255
9月	203,500	4,900	788	591	623	797	1,015	240
10月	205,375	5,382	777	585	614	797	1,015	240
11月	206,625	5,800	776	584	613	798	1,015	270
12月	216,625	5,927	774	582	612	797	1,015	270
昭和43年 1月	218,500	5,382	768	580	613	794	1,015	270
2月	219,125	5,391	768	580	613	791	1,009	270
3月	219,125	4,825	770	586	615	787	1,013	270

資料：農林省茨城統計調査事務所

9 茨城県鉱工業生産指数

(35年=100)

年月	産業 総合	公益 事業	鉱工業	鉱業	製造業			製造業	鉄鋼業	非鉄金属 工業	一般 機械	電気 機械
					石炭 業	金属 業	非金属 業					
昭和36年	126.5	96.9	126.6	102.9	101.8	103.8	120.1	129.7	128.5	140.2	155.8	143.8
37年	126.1	97.2	126.3	103.5	99.1	112.6	124.8	129.3	128.5	107.9	145.7	141.7
38年	140.8	84.1	141.2	105.8	101.8	113.9	139.5	145.7	133.8	138.8	169.2	145.1
39年	163.5	104.1	164.0	110.0	105.1	113.9	185.2	170.9	169.3	200.0	158.5	181.2
40年	180.5	109.4	180.9	109.4	101.2	111.6	176.6	190.6	159.0	193.8	159.0	251.2
41年	201.6	303.3	201.0	118.1	117.7	114.9	152.0	211.8	183.1	211.2	192.2	279.3
41年 4月	160.9	130.7	161.1	112.6	112.3	108.3	149.6	167.3	192.9	207.0	94.2	176.4
5月	208.4	148.4	208.8	114.0	117.3	99.5	154.4	221.0	162.4	206.3	344.0	307.1
6月	207.3	264.4	207.0	119.9	118.6	121.1	139.4	218.2	182.6	218.9	223.5	326.9
7月	216.2	498.2	214.5	119.4	116.7	121.6	160.5	226.8	185.9	210.8	168.2	376.0
8月	225.2	631.2	222.8	102.7	97.2	115.6	120.7	238.3	143.9	191.1	77.3	468.8
9月	182.3	482.1	180.5	110.4	105.7	118.8	154.4	189.6	199.6	171.2	308.2	201.6
10月	168.1	564.6	165.8	121.2	119.0	122.0	163.6	171.5	185.1	221.8	80.6	207.8
11月	177.1	126.9	177.4	127.3	128.0	120.6	163.3	183.9	203.4	239.2	86.2	216.2
12月	194.5	396.7	193.2	134.1	137.0	120.6	176.9	200.9	175.6	237.2	157.3	223.1
42年 1月	225.8	575.8	223.7	123.7	129.4	104.0	153.6	236.6	169.6	224.8	432.8	222.7
2月	186.9	606.0	184.4	118.6	122.9	103.3	144.9	192.8	205.1	228.1	115.2	185.6
3月	235.4	597.5	233.2	132.8	136.1	119.1	165.5	246.2	195.1	263.8	255.4	254.4
4月	206.1	356.1	205.2	112.5	109.5	113.7	165.1	217.2	216.5	261.7	198.9	262.2
5月	195.6	102.4	196.2	107.4	104.8	106.9	168.1	207.6	206.6	242.1	122.2	257.9
6月	205.3	99.7	206.0	107.6	105.5	110.4	130.2	218.6	254.9	286.1	213.6	238.8
7月	200.7	677.1	197.8	107.3	105.6	107.5	140.4	209.5	218.9	270.7	125.3	261.9
8月	203.4	892.1	199.2	95.0	91.1	98.3	153.6	212.7	198.7	320.8	150.0	240.9
9月	216.2	2,549.5	202.2	107.0	94.0	119.3	289.3	214.5	232.8	273.2	133.9	255.7
10月												

(つづき)

年月	輸送用 機械	精 密 機 械	窯 業	化 学 工 業	石油石 炭製品	皮 革 工 業	紙 及 パ ル プ	織 維 業	製 材	食 料 品 工 業	た ば こ 工 業	その 他 の 工 業
37年	215.1	653.3	98.8	90.8	94.5	172.1	149.7	165.2	112.6	119.0	74.0	114.2
38年	266.7	1,064.8	100.7	94.3	77.5	220.3	162.2	176.7	108.0	122.7	72.0	162.2
39年	318.0	1,260.0	120.7	97.2	70.0	255.8	175.4	144.7	128.2	126.2	56.9	169.6
40年	295.3	1,175.9	122.9	80.4	71.8	276.5	174.8	169.6	123.2	130.1	37.8	253.0
41年	330.2	1,137.9	128.7	99.5	67.1	290.8	216.4	159.3	133.4	140.3	27.0	282.1
41年 4月	359.7	1,162.1	122.7	38.0	71.2	362.7	219.0	143.4	127.9	103.0	31.7	304.4
5月	261.0	1,002.7	120.1	101.6	72.8	317.2	203.0	123.2	113.8	105.7	34.7	227.3
6月	303.6	1,105.6	118.6	106.9	66.3	303.4	226.2	123.1	118.7	94.6	33.2	235.8
7月	335.4	1,082.9	121.4	113.2	63.1	270.0	227.2	132.3	146.2	97.2	21.8	241.4
8月	324.8	971.8	136.5	117.5	61.2	275.8	220.0	166.0	117.6	97.2	11.5	265.0
9月	334.4	1,175.2	129.8	117.1	60.4	250.6	223.5	229.5	147.7	93.2	24.4	244.4
10月	337.9	1,012.7	119.2	93.2	63.1	291.2	231.4	177.7	152.0	66.4	24.5	280.7
11月	376.5	1,179.7	143.2	108.4	61.3	279.8	207.4	173.7	127.8	78.5	22.1	326.9
12月	420.5	1,133.7	173.1	92.7	69.7	376.4	231.2	183.9	138.4	124.2	22.3	349.9
42年 1月	337.0	1,038.9	103.5	102.8	70.3	445.3	225.8	159.0	138.0	280.9	19.2	342.5
2月	384.0	1,165.7	152.7	109.0	64.9	302.4	241.7	182.6	141.4	265.1	18.5	233.5
3月	394.0	1,391.0	148.6	115.9	70.4	388.3	248.5	182.6	138.0	331.6	18.7	321.3
4月	429.5	1,096.9	145.3	101.9	56.3	318.7	244.2	143.7	124.5	125.3	15.2	322.2
5月	369.9	1,264.4	119.6	118.2	54.1	317.3	184.7	193.2	114.4	171.8	12.3	315.2
6月	557.5	1,443.4	121.8	124.3	53.1	325.4	245.3	160.0	117.8	101.1	12.7	290.0
7月	453.8	1,100.6	152.6	131.3	51.0	363.1	255.9	190.1	124.4	99.2	11.2	291.1
8月	361.9	1,175.7	143.0	152.6	49.9	353.5	255.5	199.4	119.9	100.4	12.0	286.0
9月	484.0	1,102.0	153.4	137.8	49.1	424.2	263.9	255.3	131.6	125.5	11.0	277.5
10月												

資料：県統計課

## 10 産業別推計労働者数・平均

	調査産業総数			業		
	本 月 末 労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本 月 末 労働者数	実労働時間数	現金給与総額
昭和39年	164,774	193.5	29,318	11,807	199.8	34,515
"  40年	155,584	186.4	32,542	12,196	199.2	37,797
"  41年	145,483	187.2	36,878	12,902	201.0	40,549
"  42年	146,584	191.7	42,417	11,849	193.8	45,128
昭和42年1月	142,932	178.2	33,801	12,942	194.5	36,713
2月	143,380	194.1	31,292	12,815	194.9	36,135
3月	143,806	187.1	32,519	12,658	200.3	36,968
4月	146,907	197.2	32,209	12,312	189.8	35,203
5月	144,932	183.4	33,776	12,073	188.5	35,670
6月	144,450	206.3	63,365	11,494	193.7	50,614
7月	146,894	178.2	45,834	11,270	189.6	43,655
8月	146,703	185.3	35,452	11,311	183.4	55,623
9月	145,720	199.4	35,016	11,194	196.7	37,785
10月	148,655	195.5	36,605	11,185	193.4	42,029
11月	151,618	195.3	35,776	11,435	198.4	41,727
12月	153,014	200.3	93,355	11,497	202.2	89,380
昭和43年1月	160,159	175.8	42,416	11,487	181.0	38,058
2月	159,026	195.1	35,682	11,331	195.2	40,357
3月						

	卸売小売業			金融保険業		
	本 月 末 労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本 月 末 労働者数	実労働時間数	現金給与総額
昭和39年	8,086	192.6	25,545	5,288	180.1	37,085
"  40年	7,426	197.4	29,061	5,112	166.2	41,419
"  41年	6,498	195.4	28,924	4,634	151.8	43,758
"  42年	6,873	191.6	31,064	4,555	169.6	46,006
昭和42年1月	5,979	185.9	23,650	4,441	158.5	40,296
2月	5,899	180.8	24,095	4,605	166.7	30,818
3月	5,991	183.3	22,958	4,582	165.9	43,716
4月	6,838	202.1	24,569	4,648	177.0	35,548
5月	6,713	180.8	24,286	4,470	159.3	31,728
6月	6,660	218.2	42,541	4,563	179.3	57,554
7月	7,508	198.9	30,636	4,602	178.7	52,035
8月	7,438	176.8	25,541	4,641	181.5	34,862
9月	7,366	191.6	26,156	4,661	173.3	51,339
10月	7,317	192.5	27,826	4,507	165.9	38,557
11月	7,348	184.6	27,795	4,455	168.9	35,367
12月	7,420	203.3	72,713	4,486	160.2	100,251
昭和43年1月	7,943	175.6	28,873	4,426	159.1	48,676
2月	7,208	185.6	26,818	4,452	157.9	38,835
3月						

資料：県統計課

労働時間および平均月間給与額

(30人以上の事業所)

建設業			製造業		
本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額
6,829	181.2	28,017	108,943	191.3	27,072
6,047	174.2	30,625	103,093	180.7	29,999
5,098	165.7	30,300	96,831	175.4	34,870
4,338	161.1	37,695	101,726	196.3	40,845
5,056	157.9	24,324	97,328	176.6	33,278
5,469	164.3	26,233	97,410	198.7	30,097
5,276	94.7	36,122	98,229	190.9	29,593
4,796	149.8	25,905	100,949	202.6	31,048
3,631	140.4	27,356	100,731	184.9	33,722
3,653	174.8	59,896	100,836	210.8	64,382
4,114	172.0	35,751	102,035	202.3	45,427
3,819	171.0	27,216	102,091	184.8	33,139
3,512	176.7	32,285	101,868	203.5	34,394
3,585	169.5	34,668	104,892	198.4	34,661
4,199	183.8	35,822	106,974	198.1	34,424
4,941	177.9	86,761	107,367	203.4	85,954
7,033	150.3	28,966	112,628	175.9	43,993
7,143	142.7	26,258	111,722	200.7	35,059

運輸通信業			電気・ガス・水道業		
本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額	本月末労働者数	実労働時間数	現金給与総額
22,167	197.8	36,607	1,623	178.5	49,490
19,012	192.1	40,528	1,943	174.0	55,638
15,610	190.3	45,243	2,245	166.6	64,110
14,456	194.2	51,829	2,377	176.0	72,459
14,445	188.9	37,120	2,363	155.0	52,066
14,421	192.2	36,433	2,364	166.6	50,695
14,302	194.6	43,533	2,336	178.7	55,140
14,584	193.2	37,778	2,368	170.7	56,077
14,482	187.6	36,690	2,420	179.8	50,519
14,428	198.1	63,314	2,403	189.5	157,833
14,559	195.6	49,836	2,398	186.5	54,821
14,617	199.3	39,272	2,377	183.8	58,534
14,335	195.6	40,128	2,369	178.6	60,239
14,368	192.8	47,336	2,376	181.7	54,013
14,414	195.2	41,288	2,365	163.0	56,956
14,518	197.8	149,220	2,354	177.5	162,616
14,441	189.0	41,678	2,360	159.3	54,905
14,376	198.7	41,361	2,364	168.4	54,317

# 11 主要品目小売価格(水戸市)

品目	銘柄	単位	38年	39年	40年	41年	42年	43年	3月	
			12月	12月	12月	12月	12月	1月		
うるち米 食小粉 干麦 まうど ろ	非配給(内地白米)		1kg	84.70	125.00	131.00	129.00	140.00	140.00	140.00
	普通品		〃	95.00	92.70	104.00	103.90	108.11	108.11	108.11
	1等粉		〃	—	72.50	71.30	71.25	70.75	70.75	70.75
	中ぎはだ切身		100g	51.80	77.00	77.00	77.00	77.00	77.00	77.00
かいれ 煮干 塩けず り	まがれい丸		〃	30.00	28.80	33.80	37.50	31.97	32.50	45.00
	するめいか		〃	11.00	20.80	17.00	19.25	17.67	16.67	17.00
	かたくちいわし		〃	40.00	38.80	37.00	38.75	40.00	40.00	41.25
	切身並		〃	27.30	61.50	70.00	70.00	66.25	67.50	68.75
牛豚鶏ハ 牛	中		〃	80.00	65.00	73.30	92.50	100.00	95.00	90.00
	中中		〃	70.00	68.80	70.00	57.50	70.00	65.00	65.00
	上		〃	65.00	62.50	63.80	62.50	61.25	61.25	61.25
	プレスハム中 びん詰(180cc)		1本	50.00	53.80	63.80	65.00	66.25	66.25	67.50
パタ一 鶏卵 キヤベ ぼうれ 白ん草 菜	雪印(225g入)		1箱	170.00	170.00	170.00	175.00	175.00	175.00	175.700
	1コ約60g		100g	24.00	21.50	26.30	23.00	25.00	24.38	27.13
	結球		1kg	25.00	90.00	31.30	36.25	47.50	45.00	50.00
			100g	4.88	5.00	4.33	7.75	6.75	10.25	3.75
ね馬大 にこ	ぎよ根		100g	4.75	5.25	3.50	6.75	6.25	5.75	7.50
	んじ		1kg	30.00	32.50	37.50	55.00	57.50	60.00	60.00
	う		〃	7.50	17.50	3.00	13.25	32.50	26.25	23.75
			100g	6.25	12.30	5.50	6.25	8.25	8.50	7.25
玉あ干 豆納	ぎざり腐 豆		〃	12.00	4.00	7.00	8.50	9.50	12.00	14.50
	葉玉ねぎを除く		〃	23.00	30.00	30.00	40.00	30.00	30.00	30.00
	大粒		10枚	120.00	223.00	145.00	195.00	185.00	192.50	250.00
	黒のり中		100g	5.00	6.25	6.58	6.58	7.14	7.14	7.14
ちくあん 梅ぼ 野菜 し	葉玉ねぎを除く		〃	20.00	10.60	14.20	14.23	14.23	14.23	14.22
	焼並		〃	10.80	12.20	11.60	12.50	14.28	14.28	14.28
	本づけ中		〃	14.30	11.80	9.50	11.75	14.50	14.50	15.00
	中粒並		〃	20.00	48.80	50.00	46.25	38.75	38.75	38.75
み砂食 チヤ キ	並		〃	20.00	17.50	17.50	17.00	17.50	17.50	17.50
	キツコーマン2ℓ		1本	190.00	210.00	210.00	210.00	230.00	230.00	230.00
	中		1kg	80.00	85.00	105.00	110.00	112.50	115.50	112.50
	上白		〃	190.00	136.00	134.00	123.75	126.25	126.25	127.50
塩せん 甘納花 落かん みり	大豆油、上		2dl	35.00	33.80	33.50	33.75	100.00	100.00	100.00
	明治板チョコ(54g)		1枚	—	2	2	—	40.00	40.00	40.00
	森永(12粒入)		1箱	—	2	2	20.00	20.00	20.00	20.00
	ろるち米粉製		100g	24.50	29.00	30.00	36.88	37.88	37.88	38.00
ぱいナ 清ち ピせん	並		〃	15.00	22.50	25.80	24.38	24.38	24.38	24.38
	バターピーナツ		〃	—	—	—	38.75	38.75	38.75	38.75
	国光		1kg	103.00	85.00	95.00	127.50	106.25	112.50	130.00
			〃	—	97.50	100.00	126.67	88.33	80.00	97.50
台湾産 1級(1,800ml入) (632ml入) 中	台湾産		〃	—	2	20	200.00	237.50	237.50	262.50
	1級(1,800ml入)		100g	—	—	—	—	90.00	100.00	55.00
	(632ml入)		1本	675.00	675.00	710.00	710.00	750.00	750.00	750.00
	中		〃	115.00	115.00	120.00	120.00	120.00	120.00	120.00
中			100g	60.00	60.00	150.00	150.00	150.00	150.00	150.00

資料：県統計課

## (つづき)

品目	銘	柄	単位	38年	39年	40年	41年	42年	43年	〃 3月
				12月	12月	12月	12月	12月	1月	
か け ろ ど ん ス 並 並 家 賃 間 板 代 材	並 並 民 営 1 カ 月 〃 〃 す ぎ 並 1 等		1杯	40.00	40.00	41.70	43.33	50.00	50.00	60.00
			1皿	70.00	100.00	96.70	96.67	100.00	100.00	100.00
			3.3m <sup>2</sup>	324.00	359.00	491.00	520.15	631.65	633.01	639.11
			1畳	363.00	451.00	478.00	562.96	524.71	543.46	543.46
			3.3m <sup>2</sup>	800.00	838.00	852.00	889.00	—	—	—
角 ベ ニ セ メ 畳 板 ガ ラ ス	材 板 ト 表 ス す ぎ 正 角 並 1 等 ラ ワ ン 材 普 通 (50kg) 含 張 替 え 工 賃 普 通		1本	800.00	839.00	920.00	1,100.00	1,412.50	1,412.50	1,412.50
			1枚	205.00	186.00	193.00	220.00	227.50	227.50	227.50
			1袋	400.00	340.00	340.00	350.00	360.00	360.00	360.00
			1枚	760.00	784.00	833.00	862.50	1,087.50	1,087.50	1,067.50
			1枚	100.00	95.00	120.00	120.00	150.00	150.00	150.00
大 工 手 間 代 ら べ ん カ レ ン ザ ー	家 屋 修 理 洋 ざ ら 普 通 品 ア ル マ イ ト (径20cm) ア ル マ イ ト (2ℓ入) 375g入		1日	—	—	1,400.00	1,500.00	1,800.00	1,800.00	1,800.00
			1枚	—	—	—	111.67	98.33	98.33	100.00
			1個	433.00	530.00	530.00	560.00	583.33	583.33	590.00
			〃	433.00	433.00	683.00	760.00	796.67	796.67	916.67
			1箱	30.00	28.80	30.00	30.00	27.75	27.75	27.00
空 敷 時 計 木 灯 ア ロ パ ン ガ ス	本 草 中 男 子 腕 時 計 黒 炭 堅 1 級 (15kg) 白 灯 油 容 器 代 を 除 く		1本	305.00	413.00	490.00	487.50	507.50	550.00	550.00
			1個	450.00	600.00	617.00	733.33	866.67	866.67	866.67
			1俵	528.00	—	545.00	575.00	675.00	690.00	690.00
			18ℓ	380.00	380.00	350.00	350.00	350.00	350.00	350.00
			10kg	—	800.00	800.00	750.00	750.00	750.00	750.00
男 子 婦 人 婦 人 さ ら し 婦 人	ウ リ ー ナ イ ロ ン 上 級 品 ウ リ ー ナ イ ロ ン 11 号 さ ら し 冬 物 平 織 毛 100%		1足	200.00	200.00	233.00	200.00	220.00	220.00	220.00
			〃	350.00	333.00	300.00	200.00	200.00	200.00	150.00
			〃	113.00	133.00	160.00	150.00	150.00	150.00	250.00
			1反	267.00	260.00	270.00	266.67	276.67	276.67	290.00
			1反	—	2,700.00	3,600.00	4,266.67	4,033.33	4,033.33	3,800.00
タ ぬ 男 子 運 動	純 綿 100% カ タ ン 糸 50 番 黒 牛 皮 中 級 品 女 児 用 ビ ニ ー ル 白 24cm 上 級 品		1枚	70.00	70.00	70.00	70.00	76.67	76.67	80.00
			1巻	96.70	100.00	95.00	95.00	101.67	101.67	101.67
			1足	3,170.00	3,430.00	3,500.00	3,700.00	3,600.00	3,600.00	3,600.00
			〃	360.00	383.00	457.00	456.00	473.33	473.33	473.33
			〃	355.00	365.00	375.00	377.50	382.50	382.50	392.50
仕 せ ん 〃 感 脱	代 背 広 シ ン グ ル 綿 ワ イ シ ヤ ツ 背 広 上 下 ド ラ イ 抗 ヒ ス タ ミ ン 剤 (25錠) 局 方 (50g)		1着	8,000.00	9,000.00	9,830.00	9,833.00	1,333.33	11,333.33	11,333.33
			1枚	40.00	40.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
			1着	425.00	438.00	500.00	500.00	500.00	500.00	500.00
			1箱	140.00	128.00	170.00	170.00	166.67	166.67	166.67
			1袋	36.30	34.00	36.70	30.75	30.75	30.75	31.25
理 パ ー マ ネ ン ト 化 粧 せ ん た く ち	料 代 大 人 コ ー ル ド 普 通 品 新 合 成 洗 剤 (500g) 中		1回	300.00	300.00	325.00	337.50	362.50	370.00	370.00
			〃	650.00	750.00	750.00	775.00	837.50	837.50	837.50
			1個	28.80	28.00	30.80	31.25	30.75	30.75	30.00
			1箱	90.00	92.50	90.90	90.00	90.00	90.00	90.00
			100枚	14.30	15.80	18.80	18.75	20.00	20.00	20.50
ク リ ー ム 殺 虫 ノ ト ブ ツ ク レ ン タ ー ペ ー パ ー 筆	バ ニ シ ン グ パ ビ リ オ ワ イ パ ー エ ス ゾ ル B 5 版 24 枚 〜 32 枚 コ グ ヨ ヒ ー 31 ト ン ボ 8,900 番		1個	200.00	400.00	600.00	600.00	600.00	600.00	600.00
			1本	—	—	—	230	240.00	240.00	240.00
			1冊	—	—	30.00	30.00	30.00	30.00	30.00
			〃	—	—	40.00	40.00	40.00	50.00	50.00
			本1	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00	10.00
ク レ ヨ ン 写 真 焼 付	さ く ら ク レ パ ス 25 色 引 伸 手 札 型		1箱	100.00	100.00	120.00	120.00	120.00	120.00	120.00
			1枚	20.00	20.00	25.00	25.00	25.00	25.00	25.00

## “統計の価値科学の世に生きる”

人間が月の世界に到達しようというように、現代は、いろいろな分野において、相像にも及ばないような高度化へ向つて進んでいく。このような社会、経済の激しい移り変りに対処するために現代人は、科学的、合理的なものごとの処理が要求される場所である。

行政施策の円滑な運営のためにも、企業合理化などの分野においても、確実な資料を基礎にして行なわれるようになってきている。統計は、その科学性、合理性から現代社会の要請に応え得る最も鋭利な武器として、これからますます精度の高い高度なものが必要となつていくようである。

## “勤によるものごとの処理危ぶまれる”

日本人は、元来「数字」に弱いとされている。たしかに数学が得意であるという人は少ないようだ。そうすると自然に物事を考察するにあたって勘に頼る傾向が強くなり、現代の科学時代においても、勘による物事の処理を行つていくということが多く、客観的な資料に基いて合理的な考察をするのが不得手な国民であるといわれているような。

経験や勘も必要であるが、現代においては、統計的な考え方をを用いて、合理的、客観的な判断をするような生活態度が、必要であるとされている。

## “指数いま社会の変転を語る”

指数とは、同種統計数字の比較を容易にするために計算される。「統計比例数」の一種であると統計辞典にいう。たしかに、実数を直接比較してみてもその数字の動きはなかなか実感として納得されないようである。指数は、ある時点の基準数値を100として、その前後の時点を105とか98とか表わし変化の相対的大きさをより明瞭に比較することができる。物価の変化をみる物価指数とか、生産の動きをみる鉱工業や農産物の生産指数その他いろいろな指数が作られており、この指数を図化することによって、ものの動きが一目で把握することができる。

## “ランドセル横断歩道が危ないな”

さくらの花とともに、新学年がはじまる。幼稚園から大学まで希望に満ち溢れそれぞれの校門をくぐる。なかでも小学校の入学風景はほゞ笑ましい。自分にもこんな時代があつたのかなと思う。

何もかも新しいものづくめ、ランドセルがカタカタと希望の音を響かせて光っている。この可愛い子供達にとって現代の大敵は交通戦争である。自動車ラッシュの昨今、新入学児の交通事故も教多く報道されている。お互に交通ルールを守つて子供達が安心して通学出来るようにしたいものである。

## “世相にはかかわりもなくさくら咲く”

毎日のニュースには、忌むしい悲しい事件があまりにも多い。国際的な大ものから街角の小っほけなものまで現代社会の縮図が報道されているようだ。

ベトナムの悲劇、思想の対立、黒人騒動、物価、交通戦争、汚職に収賄、その他もろもろの事件が日常茶飯時のように。しかし自然は人間の行動にはかかわりなく、希望の春を持つてきて、今年もサクラが人々の目を楽しませてくれた。国花、さくらも近年は排気ガスなど、社会の発展に汚されその色もあせてきたとか。

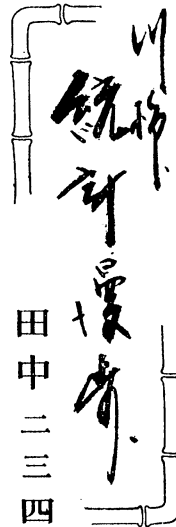
## “転勤の荷物に犬も猫もいる”

4月は、異動の月、新年度の発足とともに各方面で異動が行なわれる。一枚の辞令がサラリーマンの住居をかたつむりのように変えさせてしまう。

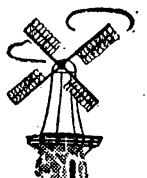
人の生活というものは、高度成長下生活水準が向上するにつれて耐久消費財などの家財道具が多くなるやら、縁に親しむ人の習性から庭木なども引越荷物に加えられ大変なようである。この引越の月、そちこちでいろいろな風景に出くわすことが多い。

## “定年という人生駅がある”

人生行路は、長いようでも過ぎ去つた思い出は短かく淡いものであるとか。いろいろな職場に一生を捧げてくらしを守つてきたサラリーマンにも、定年制という関門がある。時は刻々と好むと好まざるに関わらず定年という職場の終末駅に運んでくれる。地方公務員にも定年制が法制化されそう、しかし実際には今までにも法制化されていながつたが、ある年令になると勧奨退職という内約があつたわけである。



⑧4



## 藍 綬 褒 章 に 輝 く

### 名 雪 定 一 さ ん

昭和43年の藍綬褒章伝達式が4月4日、総理府総務長官室で行なわれ、本県からは統計調査員の名雪定一氏（波崎町）が選ばれ、褒章の授与をうけた。

氏は明治29年3月生れ、大正12年早稲田大学専門部法律科卒業後行政書士として、人生のスタートにつき、戦後は、波崎町議会議員、部落区長、町内遺族会副会長などの重責をはたしながら、終始一貫、国勢調査員としても活躍されている。

× × ×

氏が統計調査の職についたのは、大正9年の第一回国勢調査員から、以後昭和40年の国勢調査に至るまで、毎回の国勢調査に従事してきた。

氏は、着実にして責任感強く、国勢調査が国の最も重要な統計であることの本旨を理解し、町当局にも連絡を密接にしなが、他調査員の指導的役割を果たしてきた。

また、その調査にあたっては、受持区域を精密に巡回し、調査地帯、人員のは握につとめ、懇切丁寧な記入指導を行なうなど、調査は完全なもので、他の模範として高く評価されている。

また、波崎町議会議員、公民館運営審議委員等の役職にも就き住民の生活向上、福祉の増進に尽した功績もき



わめて大きく昭和41年11月には、統計調査を通じて地方自治の向上に貢献した貢献により茨城県知事から茨城県功績賞をうけている。

× × ×

伝達式当日は、午前11時、子息博悦氏を同伴者に、総理府特別会議室に参集、長官室における伝達式を終了後、午後1時大手門から皇居参入、陛下からおことばを賜ったあと皇居内を拝観、乾門から皇居を退出した。

---

## 統 計 調 査 の 紹 介

### 就業構造基本調査

今年7月1日に、総理府統計局において構造基本調査が行なわれる。この調査は昭和31年に始めて実施され、今回で5回目当たる。この調査はわが国人口の就業実態、労働力の移動状況を全国別地区別に明らかにして、雇用施策、経済計画、地域開発計画などの施策の基礎資料を得るものである。わが国人口の就業実態について

は、労働力調査などにおいても調査されているが、今日の実態や労働力の調査は、これよりもっとくわしく不完全就業の実態や流動状況をも調べるものである。

また、この調査は、国民の就業者識についても調べられる。

調査は、全国から抽出された世帯およびその世帯に常住している15才以上のものについて多種類の調査票を用いて行なわれる。